

## 粗飼料をよく食べた子牛は、大きな枝肉になる

但馬牛の枝肉重量に影響する要因を検討するために、子牛市場体重と枝肉重量に特徴的な繁殖農場を選定して、現地調査を実施した。その結果、枝肉重量が大きくなる農場は、濃厚飼料を急激に増給せず、かつ多給しないで、粗飼料を多く給与していた。

### 内容

子牛市場体重が大きく、将来の枝肉重量が大きい農場（大大）、子牛市場体重は大きい、将来の枝肉重量が小さい農場（大小）、子牛市場体重は小さい、将来の枝肉重量が大きくなる農場（小大）、子牛市場体重が小さく、枝肉重量も小さい農場（小小）の4つの特徴的な農場各3戸の雄子牛（去勢）について、発育や飼料給与状況の違いを調査した。

初乳製剤投与や代用乳の追加給与を実施している戸数は（大大、小大）が多く、濃厚飼料給与量は（大小、小小）が4か月齢時に急増しており、4～5か月の濃厚飼料給与量に大きな違いがあった。（大小）は6か月齢以降も濃厚飼料を増給し続け、出荷前の9か月齢では平均5.2kgまで給与していた（図1）。粗飼料給与量は（大小、小小）は4か月齢以降2.0～2.6kgでほぼ一定に給与して

いたが、（大大、小大）は4か月齢以降も増給し、給与量が多かった（図2）。

以上より、枝肉重量が大きくなる肥育素牛を作るためには、まずほ乳期に免疫力を高める初乳製剤を投与し、代用乳を追加給与して人工乳の摂取量を多くして初期発育を良くし、育成中期以降に濃厚飼料を適量給与した上で粗飼料を多給することが重要であることが分かった。粗飼料の採食量を増やすために、濃厚飼料より先に粗飼料を給与すること、早い月齢での濃厚飼料の急増は避けて、徐々に給与量を増やし、早期に一定にすることが良いと考えられる。

### 今後の方針

今後、濃厚飼料を最大給与する最良の月齢について検討する。

秋山 敬孝（北部 畜産部）

（問い合わせ先 電話：079-674-1230）

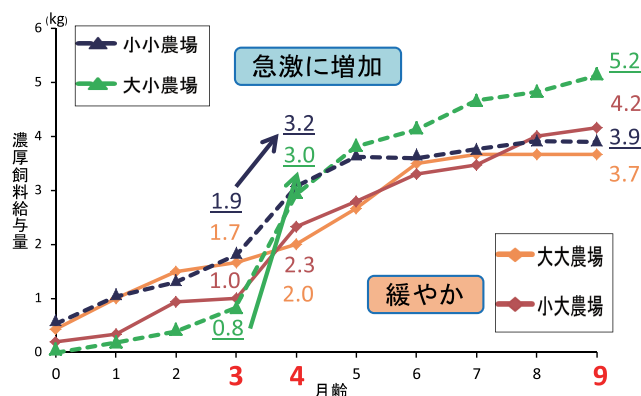


図1 濃厚飼料給与量

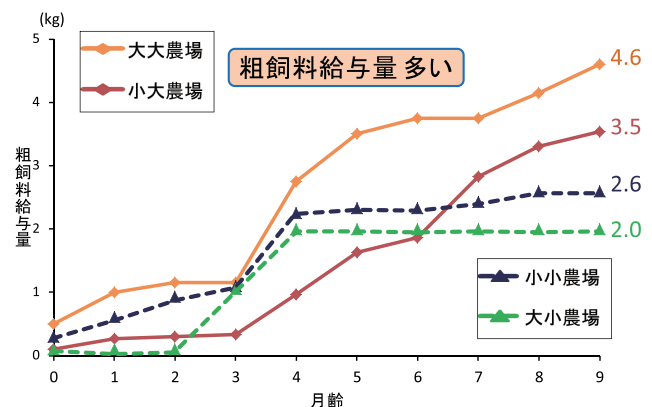


図2 粗飼料給与量